



【個人携帯火器紹介】・・・写真下1は、91式地对空誘導弾（スティンガー）、2は、87式対戦車誘導弾（タンクバスター）、3は、01式軽対戦車誘導弾（軽MAT）、4は、110mm個人携帯戦車弾（パンツァーファウスト3）です。写真左は、紹介が終わって96式装輪装甲車で退場して行く処です。こちらは会場を一杯に使った戦車や自走砲等の行進紹介と違い、場所が観閲台前であった上に、一人づつの紹介だった事から、会場のあちこちから一気に人が押し寄せ、この日一番の人だかりと、シャッター音で賑った一シーンです。



止まないシーンでした。自衛隊の式典やイベント取材となると、「みりば」の趣旨上どうしても「地域交流」を主題に構成・編集をしなければ成りません。毎回、限なくシャッターを切捲っては来るのですが、いざその段階に成ると、つい欲目が出てしまい、あれもこれもと限られたスペースの中に画像や文章を思い切り詰め込まなければ成りません。元々無手勝流が故に、これがまた難儀で厄介な仕事なのです。

内輪話はさて置き、この号の発行は12月の初旬。慌ただしい年の瀬を迎える頃となりますが、私の「創立・開設記念」の取材となりそうです。

そこで今回は、折り良く連続で学校取材の機会を得ましたので、「松戸の後方」と「土浦の正面」業務の対比を主題にして見ようと、プログラムのの中から特に両者の印象に残ったシーンをピックアップし、構成・編集を試みたと言う次第です。

今後も、部隊及び隊員の方々の活動を励みにオピニオン精神を信条として、側面支援に邁進していく所存です。

来年もまた「みりば」のご愛顧をお願い申し上げると共に、自衛隊諸兄のご健勝と益々のご健闘をお祈り申し上げ結びとさせていただきます。 編集部・吉田



【武器科機能展示】・・・おそらく「みりば」では、戦車回収車の画像紹介は初めてだとおもいます。上下の写真は、まず「90式戦車回収車」がやって来て、会場正面の観閲台前で転回します。そして、「74式戦車」を故障または破損をしたと想定し、武器科の隊員が回収して行く一連の作業工程を公開しているところです。「90式回収車」は、「90式戦車」を基に造られた車両ですが、50tもある重量感からは、およそ想像し難い俊敏で、軽快な方向転換にはいささか驚かされました。当にこれこそが日本のハイテク技術を結集した傑作であり、各国の目を注がせ絶賛を浴びたハイレベルな装備品です。

